

### Q1. Winning Team

Affirmative もしくは Negative、どちらに Vote したかお書きください。

Negative

### Q2. Speaker Score

Speaker Score と Margin をお書きください。Average との差も記入して下さい。

Margin 制限はありません。

なお、スピーカーの名前は書かなくて構いません。

Affirmative			
	Total	±Avg	Avg.
PM:	75	0	75
DPM:	74	-1	75
GW:	76	+2	75
GR:	37.5	0	37.5
Total:	263.5		262.5
Negative:			
	Total	±Avg	Avg.
LO:	75	0	75
DLO:	78	+3	75
OW:	79	+4	75
OR:	37.5	0	37.5
Total:	269.5		262.5

Margin:   6  

### Q3. Reason for Decision:

・字数制限は特に設けません。改行してスペースを増やしても全くかまいません。(なお、Q4,Q5 は次のページにありますのでご注意ください。)

Vote は Opposition にいれました。

1、 政府が介入すべきか、parental right を尊重するべきか

この issue については両サイドで争われており、双方とも時間をかけて討論されていたため、詳しく見ました。

まず、健康被害の大きさですが、これは両サイドとも認めている問題であるため大きく争点になるのは、「この問題に対して政府が責任を持って解決すべきか、親がそれでもなお子供を養育する権利があるのか」と考えます。

- ① たしかにPM から「健康被害があまりに大きく、このままだと将来の日常生活にも危害が及ぶ」と主張されており、タバコの例を伴い説明していました。一方Opp はLO から「病的なほど肥満になったのは親だけが原因ではない」と言っていました。それに対して DPM から有効な反論がなく、加えてPM のanalogy に対しても、「どうしてタバコのケースと今回が当てはなるのか」というリコンストがなく、タバコのケースは今回の当てはなるのかは疑問が残り、LO の言う「親以外の影響も何らかある」と考えました。
- ② 加えてDLO から「親の決断は結果的に何らかの影響が子供に与えられたとしても、それは親が子供の養育に対して責任を持つからこそ、尊重されるべき」と主張が、具体例を伴う理由(宗教の教育や、割礼、中絶の決断に対して、SQ でも政府は介入せず各個人の判断に任せている)を説明していましたが、とくにGW から有効なレスポンスがなく、Gov Reply で少し「このケースにあてはまらないという」反応がありましたが、まず反応が遅く、それに対して理由が添えられていなかったため、Opp が示す parental right が尊重されるべき理由のうちの1つになると思いました。
- ③ GW で「親が子供をきちんと教育しなかったからこそ、子供は病的なほど肥満になった。だからこそ parental right は制限されても仕方ない」と言っていました。この点についてOW から「たとえ意図せずに子供を肥満にならせたとしても、それはもしかしたら政府が親に対して『健康被害の深刻さ』について多くの情報や教育をしなかったためであって、政府も一部責任を持つ」という反論をしていたことから、GW の新しい反論はOW の新しく反論されていたと考えられます。

⇒以上の点から、政府の介入に対する理由がGov はPM から主にタバコの例をとった健康被害の大きさに依存していたのに対して、Opp はLO から「intention にやったものなのか」という点とDLO が具体例を伴い理由を深める貢献をしていた、と考えられたOpp > Gov と思いました。

## 2、この plan の workability はあるのか

Gov は1カ月の fat camp について

・トレーナーやダイエット遂行のシステムが整備されており、減量のためのシステムがある

・子供も周りに肥満児がいて、痩せたいという切磋琢磨するハードな環境があり、減量する incentive も存在する。更に、肥満で悩んでいるのは自分だからこそ肥満の子供たちはやる気を上昇させる  
と言っていました。

Opp は

・問題解決に対しては alternative がある、つまり子供や親に健康促進のための education を増やすことで問題はある程度解決できると言っていました。  
・むしろ、camp に行くことで社会から疎外されている意識になりつらいとも言っていました。

⇒以上の点を踏まえると、双方が合意する今回のターゲットは「現在健康になろうとする意識があまり高くない人」なので、双方とも workability は疑問が残ると思いました。これは、Gov はシステムが整っていても、子供たちが切磋琢磨しようとするまで減量への意識が変わるのかという気持ちの変化についてあまり説明していなかったと思ったからです。Opp についても、Education をすれば多くの人たちの意識が変わるのか、という気持ちの変化についてあまり深く説明していなかったと思ったからです。なので、この点については Gov = Opp としてあまり勝敗に考慮しませんでした。

### 3、AP で子供健康は向上させることができるのか

子供について

2と引き続いてしまいますが、Gov は camp に行くことで周りの子たちがいて、camp 自体もハードだからこそ、健康向上のために頑張る、また camp でできた友達とその後も励ましあっていい影響が生まれると言っていました。

一方 Opp は「突然、親から引き離されるからこそストレスで camp に集中できなく、当人の健康向上へのやる気上昇は見込まれない」と言っていました。

→この点について、Gov が言う「ハードだからこそがんばる」という理由があまりなかったと考えたため、今回のターゲットである「今、健康について高い意識を持っていない子供たち」がそこまで奮起するのか疑問が残りました。なので、「急に親や普通の友達と引き離されてホームシックになり、むしろ camp に集中できない」という理由のほうが、説得力があると思いました。

親について

Gov は特に DPM が「子供がもう二度と camp に行きたくないからこそ、親も健康維持に努める」と言っていました。一方 Opp の DLO から、このプランでそもそも原因である「poor の人たちの生活状況は変わらないため、食生活も変わらず健康維持したくてもできない」と反論されていました。この点について、PM が camp のあとも友達とかと仲良くなって効果は継続するって言っている一方で、「本当にこの camp がつらい、と親に泣きつく子供」がいるのか、たとえいたとしてもどれくらいなのかよくわか

らなかったため、あまりこの Gov のポイントに考慮できませんでした。一方で Opp の主張に対しては「アメリカで貧困層の食生活がよくないということは PM も言っていて、少なくともこのプランでこの人々を変えることはできない」と思い、Opp の方が説得力があると思いました。

以上で3についても Gov < Opp です。

1、2、3を総じて今回は Opposition に Vote しました。大変長くなってしまい、申し訳ございません。

## Q1. Winning Team

Affirmative もしくは Negative、どちらに Vote したかお書きください。

Negative side

## Q2. Speaker Score

Speaker Score と Margin をお書きください。Average との差も記入して下さい。

Margin 制限はありません。

なお、スピーカーの名前は書かなくて構いません。

Affirmative			
	Total	±Avg	Avg.
PM:	75	0	75
DPM:	74	-1	75
GW:	76	1	75
GR:	37.5	0	37.5
Total:	262.5	0	262.5
Negative:			
	Total	±Avg	Avg.
LO:	77	+2	75
DLO:	76	+1	75
OW:	80	+5	75
OR:	38.5	+1	37.5
Total:	271.5	+9	262.5

Margin: 9

## Q3. Reason for Decision:

・字数制限は特に設けません。改行してスペースを増やしても全くかまいません。(なお、Q4,Q5 は次のページにありますのでご注意ください。)

全体として、双方自身を守るための線引きの議論を出し、それに沿ってディベートが進んでいたの聞いていて楽しい試合でした。以下の理由から、今回は Negative side に vote をしました。

○ Definition について

最初から最後まで fat camp と親でなく政府が custody を取ることの整合性が取れず(説明が一切なかったため)、Plan から Harm がそもそも出るのかという疑問はありましたが、Motion に従う限りは、親の custody は一定レベル侵害されるはずなのでこの点については Reason for decision には反映させていません。ただ、Aff.side を Case setting や建て直しの面で少し減点しています。よって、これ以外の以下の要素から勝敗を決めました。

A. Issue-based の視点

1. そもそも肥満などの問題を起因として custody に介入する理由があるのか？

Aff. Side は自身や他人に被害を与えるような生活様式には介入すべきという主張を一貫していましたが、まず、肥満などから発生する個人への被害・他人への被害自体をそれほど説明できておらず、そもそもこの話がアメリカの現状に適用できるのかという疑問が残りました。また、その理由であるならば大人にも介入すべきという反論に大人に fat camp に行く時間はないから実効性がないからというよくわからない Response しかしておらず、そこまで健康が問題ならなぜ子供だけに焦点を当てていくのかという点への納得した説明がチームとしてされていませんでした。

一方で、Neg.side は、意図的にしたような虐待ならまだしも太らせて困らせようという意志がない親に対して、その custody をそもそも侵害していいのかという話が LO から Whip まで一貫していましたが、ここに対して、Aff.side から効果的な反論は余りありませんでした。確かに、意図してない虐待(よくわかりませんが、カッとして殴って怪我をさせたとかでしょうか?)で刑罰は許されるという話はありませんでしたが、Whip で指摘されたように実情で罰されないケースがほとんどであり、かつされても刑罰がかなり減刑されるなかで、知識がないことによる無意識的な虐待における介入は許されるという内容までをしっかりと切り切れないと判断しました。また、情報や教育が足りていないという Aff.side の分析が、むしろ、Neg.side のそれならば教育などを強化すればいい、それをしていないのは政府の失敗であり、両親の失敗ではないという話を強化することになってしまい、仮に問題が存在していたとしても、政府が custody に介入すべき積極的理由はなく、線引きの議論としては Neg.side が優勢と判断しました(PMR で教育の話は New と指摘がありました、LO からしっかりと反論で出ています)。

2. Practical の部分について

Aff.side の分析としては、Fat camp に行き、正しい食生活や運動の仕方を学び、その苦労の経験が子と親を変えていくという分析でしたが、Neg.side に「そもそも行きたければ、今でも行っているわけで Target はやせる気のない人たちだ」という分析を LO から出され、その説明が apply できるのかを説明できないまらウンドが進み、また DLO で言われた貧困などがそのその問題でそこに attack しない限り問題の解決が出来ないという話に reponse がされていない状況では、そこまでの効果があるとは思えません。また、聞いていてどうしてもそんなに子供のことを考える親であるならば、LO などと言われた情報を与

えれば、勝手に問題を解決できるのではという疑問が解決されず、Plan がそこまで機能するのかという点について、Average reasonable person としては今回の Solution を積極的に支持する理由がありませんでした。

一方で、Neg.side に関しても、同様のことが言え、そもそも子供が親と引き離されて、そこまで大きなストレスや社会の中で孤立するような状況が起こるのかは疑わしさが残りました(技術的な面で言うと、Fat camp 内で友達が出来るといったある程度納得できる議論に Response が一切されていませんでした)。ただ、LO から出ていた「Target はやせる気のない人たち」ということを考えると少なくともストレスなどを感じ、それが psychological health に問題は与えるとは思うので、Harm が全くないという状況にも思えませんでした。

ここで、ラウンドの中で双方のポイントの Impact について比較がほとんどされておらず、どちらを重視するべきなのかを積極的に判断する材料が見つかりませんでした。説明ベースで考えても、肥満や社会保障への被害は問題という説明だけで終わっている Aff.side もそのストレスなどがどう深刻なのかを説明していない Neg.side にも問題はあり、どちらもありえる以上はこの点での優劣はほとんどなかったと思います。

ただし、「そもそも肥満などの問題を起因として custody に介入する理由があるのか？」という議論で Neg.side に優勢がある以上は介入によって生じる Harm が現状にある肥満などの Harm よりも許容できないということは言えると思うので、この点でも多少は Neg.side が優勢と判断しています。

以上の 2 つの理由より、Issue-based では Neg.side に優勢と判断しました。

以下、その他の要素の判定も細かく書いていきます

B.Dynamics(主に Engagement)について

立論という意味では、双方が First speaker が出した議論に説明や分析を加えていくことは出来ていたもので、そこまでの後出し感というものはありませんでした。ただし、反論において、Neg.side は LO から一貫して core になる議論を出そうとしていたのに対して、Aff.side は相手の core である「政府が custody に介入するな」という議論に Whip まで一切反論することなく、Whip でも相手の Harm に対して一切反論しないなど相手への Engagement が出来ていませんでした。この点でも、Neg.side が優勢だと判断しました。

C.POI について

Neg.side は全スピーカーが POI を取り、Whip や DLO が積極的に POI をしていたのに対して、Aff.side はほとんど Whip のみが POI をし、DPM は一切 POI を取らない等、積極的な議論の参加が見られませんでした。また、内容を見ると「なぜ、(教育などの手段がある中で)政府が custody に介入することを正当化できるのか？」という Whip への POI へ PM がうまく反応できないなど、Aff.side は POI への対応があまり上手くできていなかったのに対して、Neg.side はその内容を Speech に活かすだけでなく、Whip からの「なぜ意図的でない虐待は罰しないのか？」といった質問にもしっかりと答え切れており、この視点からも Neg.side が優勢だと判断しました。

D.Word choice について

ここは余り大きな差ではありませんが、ほとんど全員が同じ wording を使っていた Aff.side よりも LO から出ていた intensional abuse という表現を Whip で malicious intension という風に後の Speaker が前の Speaker の議論に具体的にマイナスのイメージがつく説明に出来ていた Neg.side の方がチームとして説得力がありました。

※ただ、双方共にもう少し signpost の Word choice を気にしないと聞いている人を置き去りにしているスピーチにも聞こえました。

E.Consistency について

Consistency については、双方ともに問題はありました。Aff.side は親が原因といたいのか子供が原因といたいのかはつきりせず、Neg.side も何を Root cause にしたいのかが LO と DLO で一貫せず、何を言いたいのがチームとして今ひとつ不明慮でした。ただし、「そもそも肥満などの問題を起因として custody に介入する理由があるのか？」という点においては、介入していいケースとだめなケースを出し、「どこからどこまでは認めるがどこからは認めないかが明瞭」な Neg.side(A を参照)に対して、Aff.side は個人か他人に Serious harm があつたら介入していいという例と説明だけでどういうケースなら accept できるかを説明できていない点でチームとして守りたいものを一貫して示しきれなかったという問題があつたと思います。よって、これも Neg.side が優勢と判断しました。

以上の理由から、かなり多くの側面から判断しましたが、すべてにおいて Neg.side 優勢と判断したので今回は Neg.side に votes します。

### Q1. Winning Team

Affirmative もしくは Negative、どちらに Vote したかお書きください。

Negative

### Q2. Speaker Score

Speaker Score と Margin をお書きください。Average との差も記入して下さい。

Margin 制限はありません。

なお、スピーカーの名前は書かなくて構いません。

Affirmative			
	Total	±Avg	Avg.
PM:	74	-1	75
DPM:	76	+1	75
GW:	77	+2	75
GR:	37	-0.5	37.5
Total:	264	+1.5	262.5
Negative:			
	Total	±Avg	Avg.
LO:	76	+1	75
DLO:	76	+1	75
OW:	76	+1	75
OR:	38	+0.5	37.5
Total:	266	+3.5	262.5

Margin:   2  

### Q3. Reason for Decision:

・字数制限は特に設けません。改行してスペースを増やしても全くかまいません。(なお、Q4,Q5 は次のページにありますのでご注意ください。)

今回僕はこのディベートを *Philosophy* と *Practical* の issue に分けてみて、最後に両者を比較しました。

まず、*Philosophy* のレベル、これはクリアに *Opp* だったと思います。

まず *Gov* が提示した *Philo* としては、「社会に害がある？時には親の権利を侵害するよね」というアナロジーはあるものの、どこまで制限され、どこまで認められるかが分からない、まず *Practical* に依存していて、さらに曖昧なものでした。

それに対して *Opp* が提示した *Philo* は、そもそも *Parental Right* は非常に大事で尊重すべきものであって、その基準は *Intentionality* にある、ということで、制限すべき時と、尊重されるべきの境界線が非常にはっきりしたものでした。また、*OW* でクリアになった、そもそも親だけの責任ではなく *gov* の責任なのだという話も、途中から断片は出ていたので有効と取り、かつ説得力のあるもので、大きく親の権利を侵害する妥当性を削っていたように思います。

そもそもこの *Philo* 自体が *Gov* の提示したものを上まわっていること、(つまり *Opp* の *Philo* は *Gov* の *Philo* からさらに線引きをクリアに出したものだからです。)しかも、*Engage* が十分に *Gov* になされて、しかも説明量の面を考えても、*DLO* から *OW* から、様々な例がだされ深い分析がなされているため、*Opp* の方が上まわっていると考え、今回のコンセンサスはクリアに *Opp* の出した「*Intentionality* がある時以外は、*Parental Right* は尊重すべきものだ」というラインに落ち着いたと思いました。

なので今回のケースでは、*Parental Right* が尊重されるべきである、となりました。

対して *Practical* のレベルです。そして今回の *Debate* における *Practical* の基準は、*Fat Camp* によって彼らの *Lifestyle* が変わり得るのかという、今日の *Definition* 及び *Consensus* を重視して考えました。

僕の下した判断は、*Fat Camp* から戻った時には確実に子供たちの体重はやせるものの、それが生活習慣を変えきるものかどうかは怪しく、最善の方法であるかどうかも怪しい、と考えました。*Mental Harm* については、多少はあるのではないかと考えました。

*Clash* 及び *Goal* は、長期的な *Life style* の変化だったように思えます。これに関して *Gov* の主張は、まず痩せる方法を知ることが出来る。子供はもう行きたくないから変わろうとする。親も行かせたくないから変わろうとする。というのが主で、*DPM* からきちんと、*fat camp* 中の動きなどがクリアになったと思います。

この Main のポイントが怪しくなってしまった理由は、ひとえに Opp からのオルタナを早期から含めた Engage であったと考えます。

まずオルタナが Education、親への Education、sin tax など来ていたと思います。Sin tax については OW の反論を的確と取り考慮していませんが、Route cause が Life style と親の無知していた以上、割と fat camp の重要性は薄められたと判断しました。

また、嫌々来ているのだから真面目にとらないよね、という話も、fat Camp の有効性を、ある程度削ったと思われます。また、Route cause は変わらないじゃないかという話、また特にいい反論だと思ったのが、Fat の原因は親だけでなく周りの様々な factor も絡んでいるという話が、fat camp の有効性を大きく削ったのではないかと考えました。

対して Mental Harm についてですが、これも無いわけではない、が大きくはないと取りました。もちろん、AP のメカニズムとして、まず Mental Harm があることは自明だと思われました。ただ、DPM の言う通り向こうで友達が出来人もいるだろうと思われました。しかし Gov のメカニズムでも Opp の positive harm でもあるので、この点に関しては、そこそこあるだろう、という風に判断しました。

結果的に、Mental Harm があって効くかどうか怪しい Fat Camp と、まあ Mental Harm も Parental Right の侵害もなさそうなオルタナ、が残った形となりました。

というわけで、そもそも Philo 的にやってはいけない上に、Practical でもそこまで残っていない Gov を比べた結果、しっかりと Argument が立ち、オルタナも提示し、十分に Engage も行った Opp に Vote を入れました。



## Q1. Winning Team

Affirmative もしくは Negative、どちらに Vote したかお書きください。

Negative

## Q2. Speaker Score

Speaker Score と Margin をお書きください。Average との差も記入して下さい。

Margin 制限はありません。

なお、スピーカーの名前は書かなくて構いません。

Affirmative			
	Total	±Avg	Avg.
PM:	72	-3	75
DPM:	74	-1	75
GW:	77	+2	75
GR:	37	-0.5	37.5
Total:	260	-2.5	262.5
Negative:			
	Total	±Avg	Avg.
LO:	74	-1	75
DLO:	77	+2	75
OW:	77	+2	75
OR:	37.5	0	37.5
Total:	265.5	+3	262.5

Margin: 5.5

## Q3. Reason for Decision:

・字数制限は特に設けません。改行してスペースを増やしても全くかまいません。(なお、Q4,Q5 は次のページにありますのでご注意ください。)

上の通り Negative サイドに vote しました。

以下の3点から説明します。

- 1) fat camp 強制の結果どうなるか
- 2) このプランである必要性
- 3) parental right を侵害する基準

1) Aff., Neg. 共に結果としてポジティブマターはほぼ立たないと考えました。まず、Aff. は

- ① learn lifestyle, exercise で改善
- ② 子供は学ぶもの、trainer などに囲まれ serious と感じる
- ③ もう戻りたくないの parents に家の食習慣を変えるように頼む

というロジックを挙げていましたが、fat camp がどのようなものかきちんとプランとして話されておらず、これらのロジックが前提としている(頼り過ぎている感のあった)子供の性質についても説明が甘かったため、本当にそのようなことが起こるのか疑いが残りました。加えて、DPM が反論中で「not so much stress」と言いながらコンストでは「don't want to go back to camp」としており、ジャッジとして若干混乱しました。

これに対して、Neg. からも「SQ で camp に行かないのは行きたくない親子で、その場合子供が集中して取り組むことはない」と指摘がありました。ここでは行きたくない子供のイラストもあり、集中できずうまくいかない様子がある程度わかりました。

一方で Neg. は、LO で

- ① 子供にストレスがかかる
- ② 社会復帰が難しい

さらに OW で①については homesick などの心理的負担を提示していましたが、OW については遅いうえ、全体的にインパクトまで落ち切っておらず説明不足だと感じました。

よって、この点は両サイドとも立たないか、ごく薄いと取りました。

2) 今回 Aff. が特定している問題の root cause をみたと、必ずしもこのプランでなくともよいと感じました。

- ① (poor, rich 含め) 教育が足りず、子供に知識がない
- ② 周囲に肥満が多く非難されないため、努力するインセンティブがない

Neg. は、①については「教育を拡充すればよい」と反論、②については政府のメッセージとして捉えると、直接ではありませんが sin tax の例などを早くから出しており、これらの問題の解決のために fat camp が特に必要である理由はわかりませんでした。

3) どのラインで parental right が制限されるべきかは明確に決まらなかったものの、この場合はおそらく守る余地があるのだと判断しました。

Aff. から提示された介入の理由は

- ① harm があれば介入する (tobacco)
- ② 政府が健康を守るための出費をしているから介入してよい

ですが、①はなぜ子供に焦点を当てるのかもどれだけの介入を認めるのかもわからず、②はほぼ説明がありませんでした。よって、線引きの位置もその正当性も示されていないと取りました。

一方、Neg. から提示された介入しない理由は

- ① parental right は、扶養者である親の当然の権利である
- ② intention がなければその権利を奪うほどの介入はしない (abuse ⇔ religious school)
- ③ すべてが parents の責任ではない

でした。parental right の剥奪が懲罰的で重い意味をもつというアイディアは OW から出てきたように思い、その点で大きく取することはできませんが、これら①-③については一応コンストの中で示されていて、特に DLO で多くの例 (religion, abortion など) が出てきていて、parental right 自体の重要性とそれを奪うハードルの高さは理解できました。

なお、②の intention については GW から「義務教育を受けさせなくても罰がある、子供の将来に害を与えるから」という良い指摘がありましたが、intention について肥満児の親にどう当てはめるのかまで示せていなかったため反論として十分でなく、子供の将来に関する部分もコンストの中で十分な説明がなかったため Aff. の justification と取ることではできませんでした。

以上の1)~3)より、肥満の問題に対してプランを取った結果として利益と害悪のどちらが大きいかわからないが、特にこのプランである必要がなく、奪うべきでない権利を奪うものであることから、issue base で Negative サイドに vote しました。

タイムマネジメントに特に問題はなく、ダイナミクスは重要な議論が遅れに出てくる傾向は両サイドに見られ、プラン説明 (年齢、fat camp の内容、一回きりか何回もかなど) の甘さを考えると、Manner/Method で Neg. を超えて Aff. に vote する理由は見当たらないと考えました。

### Q1. Winning Team

Affirmative もしくは Negative、どちらに Vote したかお書きください。

Negative

### Q2. Speaker Score

Speaker Score と Margin をお書きください。Average との差も記入して下さい。

Margin 制限はありません。

なお、スピーカーの名前は書かなくて構いません。

Affirmative			
	Total	±Avg	Avg.
PM:	72	-3	75
DPM:	71	-4	75
GW:	71	-4	75
GR:	36	-1.5	37.5
Total:	250	-12.5	262.5
Negative:			
	Total	±Avg	Avg.
LO:	73	-2	75
DLO:	74	-1	75
OW:	75	0	75
OR:	37	-0.5	37.5
Total:	259	-3.5	262.5

Margin: \_\_\_\_9\_\_\_\_

### Q3. Reason for Decision:

・字数制限は特に設けません。改行してスペースを増やしても全くかまいません。(なお、Q4,Q5 は次のページにありますのでご注意ください。)

NEG won for 3 reasons

1. AFF's position on depriving custody was very unclear compared to the NEG.

Initially some speakers stated that sending the child to fat camp does not equate to deprivation of custodial rights. However, they simultaneously made arguments why state intervention was necessary & principally justified. This made their stance on custodies very unclear.

Additionally, AFF's arguments about state's right to intervene was based on reasonings unrelated to the motion & their case. Their broad line of reasoning was harm to some actors, but when it came to how it applies to this specific case, they made unrelated examples about sin taxes & not allowing minors to smoke, which has nothing to do with custodies, and did not show how that is in anyway related to sending kids to fat camp because there is some health risk in the future. The method to resolve the problem was too different between the examples & the AFF proposal that it did not make any kind of significant reasoning to their principle argument.

Compared to that, NEG was RELATIVELY more clear, specific, and consistent on opposing the removal of custody from the parents and giving a clearer (albeit a bit flawed) criteria about intent of the parents to do harm as a justification for state intervention.

2. The AFF's explanation of cause & how the policy deal with it was very unclear, and sometimes contradictory.

AFF stated that the cause of child obesity was lack of knowledge (especially the parents) & access to healthy lifestyle (nutricious food, exercise, etc). However their solution does not deal with the lack of knowledge or the lack of access because they don't explain how the fat camp works. They also do not explain how the lifestyle & the knowledge is somehow kept after they leave the camp.

The only thing that is explained about how the lifestyle is sustained is the incentive of the child not to return to fat camp. However DPM made a somewhat contradictory rebuttal responding to the harms from stress LO presented, by saying that the fat camp is not that stressful & isolating, and therefore does not cause harm. This made it difficult to understand why a child will not want to go to the fat camp and thereby keep a healthy lifestyle.

They also did not explain why alternative policies like more health education to the child & parents are insufficient, despite it addressing the problem of lack of knowledge more directly.

3. The NEG's harms of stress remained until the end of the debate

Although it was not well-explained as an argument, it was not significantly rebutted by any of the AFF speakers. The incentive by the child to avoid fat camp slightly reinforced it as well.

### Q1. Winning Team

Affirmative もしくは Negative、どちらに Vote したかお書きください。

Negative

### Q2. Speaker Score

Speaker Score と Margin をお書きください。Average との差も記入して下さい。

Margin 制限はありません。

なお、スピーカーの名前は書かなくて構いません。

Affirmative			
	Total	±Avg	Avg.
PM:	72	-3	75
DPM:	74	-1	75
GW:	76	+1	75
GR:	36.5	-1	37.5
Total:	258.5	-4	262.5
Negative:			
	Total	±Avg	Avg.
LO:	74	-1	75
DLO:	77	+2	75
OW:	79	+4	75
OR:	37	-0.5	37.5
Total:	267	+4.5	262.5

Margin: 8.5

### Q3. Reason for Decision:

・字数制限は特に設けません。改行してスペースを増やしても全くかまいません。(なお、Q4,Q5 は次のページにありますのでご注意ください。)

以下の4つのcriteriaからvoteを判断しました。

#### 1) 政府の介入は正当化されるのか

まずGov.はPMの段階で「タバコ税に見られるように、国の財政(税金の使い道)に被害をもたらすものには介入してよい。肥満は病気につながるものであり、そのために多額の金が使われ、他のものに使えなくなることから介入は正当である。」と立論しましたが、これはtaxをかけることを正当化しているに過ぎず、「子供を保護する」というmotionへのapplicabilityが全く説明されていませんでした。さらにDPMでも議論が付け足されなかったため、Gov.はこのpointでmotionを肯定できていないと判断しました。

一方でOpp.はまずLOが「child abuseのように意図的に子供を傷つける場合を除いて、parental rightは最大限に尊重されるべきである。」と主張しました。これ自体はただのassertionでありreasonがほとんど無かったのですが(「子供のことを決めるbest actor」というだけではreasonとして不十分)、DLOで提示された「parentsは子供のためにお金を払ったり責任を取ったり(子供によるharmの謝罪など)して多大な負担を負っている。」というreasonや、DLOとOWで提示された「parentsが子供に特定の宗教に帰依することや妊娠中絶しないことをforceした結果、harmを与えたとしても政府は介入できない。」というanalogyによって議論が深められていました。

Gov.からはGWの段階になってようやくchild abuseや子供を義務教育に行かせないことをanalogyとして、子供に被害がある場合に政府は介入してよいという主張が出されました。しかしLOへのPOIで「parentsが子供のunhealthy life styleを作っているのはunintentionalである」と認めたことを踏まえると、child abuseなどのintentional(だと一般には考えられる)な行為がanalogyとして適当なのか疑問が残りました(言い換えるとapplicabilityが不足していたということです)。さらにOWから出された「unintentional abuseはpunishの対象ではなく、punishされたとしても多くの判例が示すように減刑されるべき。custodyを奪うことは非常に重い処罰であり、政府の失策でparentsが正しい知識を持てなかったことを踏まえると、このplanによる介入は不当である。」という反論によって否定されていました。

Opp.はさらに、DLOやOWから出されていた「unhealthy food(company)がスポンサーになっている学校にも責任がある。」「肥満や食生活について親が正しい知識を持たないのは政府の責任である。」といった主張によって、政府のparental rightへの介入の正当性にdoubtをかけ、それが不当な介入であるという印象を与えることに成功していました。

#### 2) problemとその詳細(target, uniqueness, importance)

まずGov.はPMの段階で「現在U.S.では肥満の子供が非常に多い。これは貧しかったり教育が十分に行き届いていなかったりする家庭において、ファーストフードを食べる、運動をしないなどの不健康なlife styleが形成されていることが原因

である。」と立論し、さらにDPMが「子供が減量するincentiveを持っていても彼らは一人で努力しなければならない。親は知識がなく、”周りの肥満の人もhealth problemを持っていないことから大丈夫”などと考え、協力しないからである。」と議論を深めていました。

Opp.はDLOから「S/Qでも”fat camp”は存在しており、減量したい(させたい)と考える子供やparentsはそれをoptionとして持っている。ゆえに今回のtargetはそれに参加するincentiveのない子供である。」というrefutationが出されましたが、DPMの段階で「親が協力しない」という分析が出されていたことや、GWから「貧しい家の子供は(S/Qで) ”fat camp”に参加できない」というrefutationが出されたことを踏まえると、targetは必ずしもOpp.のいう限りではないと考えました(incentiveのある子供、ない子供のどちらもいる、割合は不明)。ただし、LOで投げかけられた「なぜ子供の肥満をuniqueに危険視するのか?」という問いかけにGov.からの明確な返答がなかったほか、子供の肥満の危険性に関する説明がGov.からほとんどなかったため、problemのuniquenessとimportanceには大きな疑問が残りました。

### 3) planによる問題の解決性

A/Pで”fat camp”に行くことで子供の肥満やlife styleがどのように改善されるのか、PMからはほとんど説明がありませんでした(「子供はlife styleを変えやすいので努力する」というのはロジックとして成立していない、「友達を作る」というのはそれだけでは何に結びつくのか不明)。その後DPMとGWを経て、”fat camp”そのものの効果について「友達ができ、トレーナーが協力してくれるので、やる気を高く維持でき、ストレスも少ない状況で、効果的に減量することができる。」、「肥満の危険性について学ぶ。」、という議論が提示されたほか、”fat camp”による家庭への影響について「”fat camp”は子供にとって辛く二度と行きたくないの、終わって家に戻った後、parentsに食生活を変えるように言う。」、「planによって政府がparentsに”子供が問題を抱えている”というメッセージを送ることになる。」という議論が提示されました。

しかし後者(家庭への影響)はLOから繰り返し出されていた「貧困や親の知識のなさがproblemの原因であるならA/Pでも食生活は変わらず、また太るだけ。」というrefutationによってdoubtをかけられていた上に、GWの「大人は自分のlife styleを持っており、なかなか変えない。」という主張でさらに弱められてしまっていました。したがって子供が”fat camp”から帰ってきた後も家庭のlife styleは変化しないと判断しました。

また、LOとDLOから出された「肥満というだけで社会から隔離され、parentsと連絡をとれない状況に置かれることでストレスを感じる。」、「十分な説明もないままそのような状況に置かれた子供はparentsのことばかり考えてしまい、集中できない。」という議論と、OWから出されたわかりやすいイラスト(キャンディなど)によって、特にS/Qで”fat camp”に行くincentiveのない子供については、”fat camp”は減量に効果的であるとは言えないと判断しました。S/Qで”fat camp”に行くincentiveのある子供には、Gov.のロジックからある程度減量の効果があると考えましたが、いずれにせよ家庭のlife styleを変えることを示せていないので、planによってproblemが解決することはないと判断しました。

さらにラウンドを通してOpp.からは「学校などでのhealth educationを増やす」、「parentsにも教育を施す」、「”school dinner”の導入」といったalternativeが提示されていました。GWから「大人はlife styleをなかなか変えない(から子供に教育することが必要)」というrefutationがありましたが、これは子供への健康教育を拡大するという内容を否定できていないと判断しました。したがってplanのuniquenessも十分ではないと考えました。

### 4) dynamics

どちらのサイドも重要な分析やreasoningが2nd speaker以降に出されたり、直前のspeakerに対するレスポンスが不十分だったりしたため、お互いdynamicsに問題がありましたが、以下の理由からOpp.に比べてGov.のそれの方がより深刻であったと考えます。

まず、PMの早い段階にOWから投げかけられた、「なぜparental rightを奪うことが正当化されるのか」という質問にラウンドを通して答えられていなかっただけでなく、GWになるまでその議論に触れませんでした。また、1)で述べたように1st pointを支えるanalogyがGWから出てくるというのはあまりに遅く感じました。

一方でOpp.はLOの段階でplanのuniquenessやworkabilityに疑問を投げかけていたほか、少し遅かったもののDLOの段階で1st Pointを支えるreasoningやanalogy、targetの分類などが示されました。

これらの点からOpp.はGov.に比べて相対的にラウンド内の議論の活性化に貢献していたと判断しました。